



新年度にあたり

昨年は未曾有の出来事があり桜門山岳会員、山岳部員の御家族が被災されました。会員各位からは早速暖かいご支援を戴き厚く御礼申し上げます。

今年度は被災された方々にとっては復興元年として一日も早く日常生活に戻る事を祈念したいと思います。新年早々、学生の冬季山行における北鎌での事故について大変ご心配をお掛けしましたが、関係各位のご尽力により大事に至らず無事下山する事が出来ました。

事故の原因を究明し、今後の山行に役立てる事が重要でしょう。山岳部員が減少する中、遭難対策、危機管理の徹底が要求される昨今ですが、同時に部員のバランスを維持する事も重要でしょう。従って、部員の獲得は今年度の最大のミッションと心得たいと思います。その為にも山岳部のホームページの充実を図り遭難予防対策等の明記も必要でしょう。魅力ある山岳部へのアピールを積極的に行う事が重要かと思慮します。

短信の編集については長い間中嶋OBに頼って来ましたが何時までも中嶋OBにお願いするのは如何なものかと思い、若手が少し奮起して本件を担当すべきと判断しました。長い期間ご担当頂いた中嶋OBには敬意を表したいと思います。これからは原田、若林理事を中心に微力ながら一杯対応させていただきます。

これからも会員の活躍、活動を如何にリアルタイムにお届けするかが使命と考え、良いサービスの向上を目指したいと考えています。スピード化を進める為には電子化を図る必要があるでしょう。また内容も出来る限り幅広い会員の声を反映して行きたいと考えています。温故知新のコラムを作り過去の考え、出来事等を若い会員へ伝播して行ければ幸いですので会員各位のご協力をおねがいする次第です。

会長 原田 洋

平成 23 年度冬山合宿 北鎌尾根遭難事故

この度、日本大学山岳部は平成 23 年度冬山合宿中の北アルプス槍ヶ岳北鎌尾根におきまして、参加学生 1 名が両足に凍傷を負い、他 2 名を含め全員が主稜線から岐阜県警のヘリコプターにより救出されると言う遭難事故を起こしました。

OB・先輩皆様には 1 月 17 日付にて経過報告と言う形でご報告をさせて頂きましたが、ここに改めてご心配・ご迷惑をおかけ致しましたことに深くお詫び申し上げます。

尚、凍傷を負った関洗哉部員(文理:地理4年)につきましては、報告の通りではございますが、1 月 12 日に入院先の高山市の病院を退院し、その後の日大駿河台病院における通院治療も終了いたしました。

2月当初は、患部であった足の指の先端に違和感が残っていたものの、3月にはその自覚症状もなくなり、部室でのランニング練習も再開できるまでに回復致しました。

また、関部員につきましては個人山行（日帰り）を3月だけで5回実施し、事故当時のプラブーツの試し履き等を取り入れ、山での歩行において支障のないことも確認が取れました。

事故後、3月上旬まで、学生を中心に経緯の整理、原因の究明、分析・対策の検証を重ねて参りました。その経過の中から再発防止に結びつくものを導き出し、併せて事故報告書を作成し関係機関（大学・警察他）に提出をさせて頂きました。

山岳部顧問の西山先生におかれましても、3月19日に部室にお越し頂き事故についてのご報告をさせて頂きました。

当年度の春山合宿につきましては、事故報告書をしっかりと学生たちが作り上げるまでは山に入らないと言う考えの基に活動していましたので、実施いたしませんでした。

その分、3月の中旬以降は山への感覚を取り戻すべく個人山行を多めに実施し、何とか年度の締めくくりを迎えるに至りました。

振り返りまして今冬、正月前後の気象は冬型が緩まず異常な低温が続き平成24年豪雪と呼ばれました。事故を通じ半端では通用しないテクニック、精神的なタフネスさや判断基準やそのタイミングなど近年にない厳しい経験を致しました。

これは現場の学生のみならず、監督・コーチ陣も同時にその真価を突きつけられたと言うことであり、事故の現実と向き合いながら不備な点については真摯に反省を致しました。そして何より、現役学生から退部者もなく、次へのステップをより精力的にやっけて行こうとする姿勢に頼もしく勇気づけられたことも確かです。

今回の事故におきましては多くのOB・先輩皆様からご指導ご助言を頂き本当に感謝を申し上げます。ひき続きご指導・ご鞭撻を頂けますようお願い申し上げます。

平成24年3月31日 監督 大谷直弘

山岳部顧問 西山先生への遭難事故ご報告

山岳部顧問の西山先生におかれましては、事故直後からご心配をお掛けし、関部員の入院先である高山までお見舞いに赴くことを強く希望される程でありました。

その後、卒論、入試と西山先生のご多忙に甘える形となり、事故のご報告が出来ずにおりましたが、3月19日に部室にお越し頂き事故のご報告をさせて頂きました。ここに至るまでご報告が遅れてしまいましたことを改めてお詫び申し上げます。

飯田主将より事故の報告、平成24年度の山岳の取り組み、部員の募集計画など山岳部が抱える問題・課題などもお伝えし、また来年度の年度計画や海外登山への参加計画も予定していることをご報告させて頂きました。

今般部室にお越し頂いた折に、西山先生からは村松山のお守りを学生一人一人に頂き、安全登山への心がけを今一度確認するよう併せてお気持ちを頂きました。その後、原田会長、高緑元監督、若林OGにもご同席を頂き部室におきまして、ピザとソフトドリンクで簡単ではございますが懇親会を開催させて頂きました。

監督 大谷直弘

冬季天幕懇親会

2月11日～ 2月12日

参加者 山本（晃）、高橋（正）、鈴木（馨）、中川、中川（奥様）、嵯峨野、戸倉、平戸、古畑、原田（洋）、和田、岸田、大谷、古野、若林
学生：飯田、関、横山、山浦、池田



啄木鳥山荘



前列、西山先生は右から2番目。

今年で、二度目となる中川OBの長野・蓼科の別荘における懇親会。別荘地の中にあって30名は収容できる大きな木のロッジで、駐車スペースがロッジ前にあって便利。とはいえ、降雪と冷え込みで除雪と整地は必須でした。前日準備組は金曜の夜に買出しの後、到着。別荘をお貸しくださる中川OBと奥様が出迎えてくれる。すでにお待ちのOBもいて、ホール奥の暖炉を囲んで明日からのスキーを楽しみにされている。翌朝は、簡単な朝食を済ませ9時には皆装備を整え、車で10分のゲレンデへ。小雪が舞っていたが、滑りだす頃には快晴に。OBの方々は、颯爽という言葉がピッタリの走りで、白銀を満喫しつつくしていた。学生も次第に調子が出てきてスピードを上げている。16時まで滑った後、別荘に戻って嵯峨野OBが厨房で腕を振るわれ、お待ちかね、戸倉OBが差し入れて下さったしゃぶしゃぶ肉を前に、やはり山本さん、中川さん、平戸さんが差し入れて下さったお酒で乾杯をする。この度の懇親会には、名古屋から和田OB、大阪から岸田OBもお越しで差し入れもお持ち下さり、会はいよいよ盛り上がり、ホールにいくつもの談話グループができ、思い思いに話に花を咲かせた。スキーの心地よい疲れとそれにお酒が加わって、いつの間にか眠りについた。出発の朝は、やはり戸倉OBが差し入れて下さった紅シャケ・明太子・納豆で和朝食を。食後は、みなさんのご協力のおかげでスムーズに後片付けができ、山荘前で記念集合写真をパシャリ。解散となった。別荘をお貸しいただいた中川OBと奥様、差し入れをして下さったOBの方々に厚く御礼申し上げます。（若林・記）

出発の日の朝、別荘前で集合写真。



ブランシェたかやまスキー場にて。



別荘にて。夕食の前に、乾杯。



1月24日(火)、新橋の「ラ・パランツァ」にて新年会が開催されました。

参加者

山本、土合、中嶋、大城、川崎、谷口、高緑、神崎、森山、山平、中川、小嶋、嵯峨野、戸倉、原田(洋)、大谷、古野、早見

学生：飯田、横山、関、山浦



参加者は22名(うち4人は学生)でした。学生の北鎌遭難の直後だっただけに、北鎌の話題も多く出ました。今年は平成24年豪雪と呼ばれ、主に東北・北海道で豪雪になりましたが、正月前後の北アルプスの稜線は強烈な寒波が続き、常にマイナス20度を下回っていました。入山からヘリコプターレスキューの間の15日間で晴れたのはわずかに3日間だけでした。

この詳細は、雑誌「山と溪谷」5月号に詳しく出ていますのでぜひ書店でお買い求め下さい。



今後、学生の山行予定

- ・GW合宿(4/30～5/5) 北アルプス 唐松岳～五竜岳
- ・初夏合宿(6/10～6/15) 北アルプス 涸沢定着(前穂高岳北尾根、奥穂高岳)
- ・夏合宿(7月下旬～9月上旬) 北アルプス 剣沢定着 後半縦走 定着後～槍ヶ岳
- ・インド・ザンスカール遠征(4年 飯田) 8/15～9/28

日大山岳部ホームページのスケジュール欄が、学生によりリアルタイムに更新されています。年間スケジュール表をご覧ください、学生と山に登れるOB・OGはぜひ一緒に行ってください。

「コーチ会が一新します」 2012年3月退任 前HC・本多直也

コーチ会ですが、本年度より船田ヘッドコーチを中心とした新たなスタッフに変わります。学生に近い若いスタッフ構成となり、より学生の活動が活発になればと思います。

旧スタッフは、多くの方にご協力をいただき4年間務めさせていただきましたが、もちろん今後もかけながら応援させていただきます。ありがとうございました。（本多・記）

新人歓迎山行 4月15日(日)高尾山

メンバー 4年CL飯田 / 3年L関、横山 / 1年 田仲、池田、須郷、金原、丹羽

行程 登山口 ~ 高尾山頂着 ~ 昼食 ~ 高尾山口駅着

前日までの雨はやみ、当日は天気恵まれました。高尾山は相変わらずの人気ぶりで、人の多さには毎回驚かされます。行きは、全長3.1kmの稲荷山コースから登りました。皆快適に軽々と登り、間に休憩を一回挟み、1時間程で頂上へつきました。頂上には桜がまだ多く残って咲いており、昼食を取っている人、花見をしている人で賑わっていました。我々は、新入生歓迎山行では恒例となってきつつあるキムチラーメンを大鍋で作り、皆でおいしくいただきました。

昼食をゆっくりととった後は、一号路から3.8kmの道のりをゆっくりと下山しました。余談ですが、下山中には照英さんを見かけました。新入生の三人とは是非また一緒に山に登りたいと思います。よろしくお願いします。（横山・記）



山頂集合写真

左上から) 横山、金原、理工新入生、須郷、関、飯田、田仲
左下から) 丹羽、理工山岳の方、理工山岳の方、池田



「温故知新」 ～ 山やの履歴書 ～



山岳部に属したOB・OGの方々が、学生時代をどのように過ごし、何を考えて過ごしてきたかを、短信紙面で読み知ってもらうためのコーナーです。初回は、山口靖二OB(昭和22年入部)の文章を掲載させていただきます。

「なんで山に登るの」 前編 (2009年執筆、2012年加筆)

昭和22年(1947年)入部 山口靖二

たくさんの大切な山の思いでは遠い過去の出来事となってしまった。しかし、記憶がうすれていくなかにも忘れ得ないこともある。私はなんで山に憑かれたのであろうか。

私の山行は大東亜戦争終戦の日、昭和20年1945年8月15日から始まった。当時、日本人は戦いに負ければアメリカ人の奴隷にされると教えられていた。中学4年生の私は敵に拉致される前に、日本男児と生まれた証として何を残すべきか親友と長時間必死に話しあった。その結果、富士登山という思い出を残そうということになった。しかしその時の情勢では富士登山はたやすいことではなかった。

幸い親友の父親は内務省の政府高官であった関係で、切符・許可証・依頼状等のすべての手配が順調に運んだのは、8月23日頃だった。(15日に降伏していたのに相模原の上空には日本の戦闘機が多数乱舞していた記憶から推定した)。

その日はドピーカンの快晴に恵まれた。そして森林境界の4合目あたりだと思ふ、下界を眺め日本の国の美しさに感動し、日本国の再建を誓った。この山登りにこそ、私の山行第一回であった。

この戦後の混乱期に二人は猛烈に山行にのめりこんだ。いま思えば「国敗れて山河あり」の杜甫の世界だったのであろうか。

学校は10月より再開され、卒業までの一年半で中学(当時の中学は5年制)の全教程3年分をやらせられた。それは中学2年生半ばより終戦の日まで勤労働員され軍需工場で働いた結果そうなった訳だが、自由になった身は、勉強で遊ぶ暇はないはずなのになぜか、山にも出かけていた。

その頃、父親は震洋特攻隊員で南方方面に出撃し行方不明だったが、海南島で生存している知らせがあり家族全員が華やいだ時でもあった。1946年暮れ父が復員し、江戸川区小岩の疎開先であったが衣食住は安定した。

たまたま住まいの近くに「青峰山岳会」と謂う戦前派のロッククライマーが集まった会があり入会させてもらった。

山行は毎週土日曜日、奥多摩や丹沢・秩父、岩登りでは三ツ峠と谷川岳で実力以上の場所でごかれたが楽しくて一途にのめりこんだ。その会には若い人がいなかったことで、企画会議には生意気な私の意見も取り入れてくれて、皆さんに囑望され可愛がられながら山行を重ねた。

戦後2年目・1947年 日大世田谷予科(現在の文理学部)に入学したとき体力検定で陸上記録が抜群であったことから(中学生の時は短距離選手で種々大会に出場していた)、陸上競技部森本部長に懇願され半強制的に入部させられた。

しかしその後よい記録がでず、また大学の選手層の厚さにも泣き、半年後には選手には致命的な弁膜症があるとの理由で退部させられた。

その後、スキー部・拳闘部に申し込むが門前払いされ、恐る恐る山岳部の門を叩いたのは入学後7ヶ月も後のことであった。

当時日大山岳部は石坂さんがチーフリーダーであった。たまたま近くにお住まいだった山岳部のOB神山先輩宅に山行備品をお借りに向った時に、大学山岳部と社会人山岳会の違いを諭されて目から鱗、山の世界を教えて頂いた。それからは、当然社会人山岳会は辞めて日大山岳部の全企画山行に積極的に参加した。

1951年1月の遠見尾根の凍傷のアクシデントまで、山行日数350日3年間お世話になった。そのアクシデントとは、左足首の関節部に凍傷2度のダメージで歩行困難となり、それから半年靴が履けず下駄でびっこをしきながら登校した。山靴を履けない悲しさは今も忘れられない。当然、山には行かれるはずもなく山は諦めざるを得なかった。

しかし「人間万事塞翁が馬」とはこのこと、私の人生はそれからめまぐるしく変り始めた。その4月、凍傷が一向に治らないことに心配した母方の祖母が千葉大医学部の有名な外科中山教授の診察を手配してくれた。「このままでは足が腐り切断の可能性あり」と診断され、そのころ適切な凍傷治療はアツツ島の経験のあった旧横須賀海軍病院しかなく、権威のある旧軍医を紹介してくれた。その治療の数ヶ月間は横須賀住人となり、これが基となって虜となり、やがて養子となり、若旦那と成り上がった。

白岳のアクシデントが無ければ確実に違った人生を歩いていたであろう。また日大山岳部に在籍しなかったら今の私は存在していないと思うことがある。

それにはこの様な経緯があった。それはアメリカ交換学生に選考されたことである。しかし私の自尊心は戦時中の野蛮卑劣なアメリカ野郎を絶対許せなかった。復員したばかりの親父が私の了解なく、こともあろうにアメリカ留学の約束を父の親友の文部省役人としてきた事だった。6人兄弟の次男坊の将来を考えての事か、種の分散を図ったものなのか見栄なのかアメリカ留学を強制された。もし拒否したら家から追放されると内心思った。とにかく運動部に入って、親父から逃げる事を考えた。なんとしてもアメリカで惨めな乞食留学をしたくなかったし、原爆を落としたアメリカを絶対許せなかった。

さて、その年の春山は遠見尾根 - 鹿島槍は勿論参加できなかったが、秋には次の目標 北鎌尾根の合宿には大町の横沢先輩のお宅に泊めて頂き、本隊より遅れて北鎌沢に入った。天上沢より北鎌のコル、独標を越え槍の頂に到達できたがこれで私の山岳部での積極的な山行は足の故障のため残念だが終らざるをえなかった。

1947年・昭和22年	10月	山岳部入部
	10月より翌年の5月まで	山岳部の記録不明
1948年・昭和23年	5月	5/30-6/9 穂高横尾合宿
	7月	7/15-26 剣沢合宿 伊地知君の遭難
	11月	10/23-24 天幕懇親会
1949年・昭和24年	1月	神城スキー合宿
	3月	3/27-4/18 春山遠見尾根
	5月	5/27-6/1 谷川岳合宿
	7月	7/10-8/1 夏山剣沢合宿 - 後立山
	10月	10/1-4 日光天幕懇親会
	11月	11/19-26 富士山合宿

12月 12/19-26 万座スキー合宿
 1950年・昭和25年 1月 1/1-16 冬山遠見尾根 2度の凍傷に罹る
 以降 凍傷治療のため7月まで山行不能となる
 7月 7/31-8/10 北鎌尾根
 8月 8/26-29 谷川合宿
 9月 9/30-10/3 日光天幕懇親会
 1951年・昭和26年 凍傷の治療のため冬山参加不能となった
 9月 9/29-10/1 日光天幕懇親会
 以上が山岳部の合宿参加記録である。個人山行は記していない。

養家 横須賀では衣料店を営み戦後の復興景気に沸いていた。早速戦力に投入され 学校より店番に精を出した。勿論危険とみなされた山行は禁止され、休日は釣り・旅行・ゴルフ・マ--ヂャンと商店街の馬鹿旦那に付き合わされた。
 とにかく旅行は山岳部の乞食旅行から大名旅行に変化し驚嘆の毎日となった。

1952年・昭和27年 経済学部 経営科を卒業し家業に専念した
 1955年・昭和30年 結婚 披露宴には山岳部より山口撰郎さん丸山精一さんが来てくれた
 (後編は次回短信に続く。)

理事・評議委員会報告

2011年12月27日(火)出席者：中嶋、原田、高澤、古野、大谷、若林、学生

- ・山岳部活動報告(初冬合宿報告、唐松岳・五竜岳)
- ・冬山合宿計画(北鎌尾根～槍が岳～中崎尾根)
- ・JAC学生部海外遠征計画(インド、ザンスカール山域の未登峰)
- ・短信158号発行について
- ・新年会、1月24日(火)ラ・パランツァ
- ・OBスキー懇親会、2月11日(土)～12日(日)於白樺湖啄木鳥山荘

2012年1月31日(火)出席者：山本(晃)、高橋(正)、高緑、原田、高澤、大谷、古野、若林、学生3名

- ・山岳部冬山事故報告(北鎌尾根)
- ・新年会報告
- ・OBスキー懇親会の出席者予定者及び対応方法
- ・JAC学生部海外遠征計画、インドのザンスカール山域無名峰(L10)6,165m
- ・今後の短信発行について

2012年2月28日(火)出席者：山本(晃)、中嶋、高緑、神崎、原田、古野、学生(関)

- ・北鎌尾根事故報告書作成及び山溪取材について
- ・短信の発行、電子化推進
- ・2013年春の学生海外遠征について
- ・会報発行について
- ・ヘッドコーチの交代について

2012年3月27日(火) 出席者：原田、高澤、古野、大谷、若林、船田、学生3名

- ・学生の山行報告、丹沢塔ノ岳(飯田、他1名)
- ・学生の山行計画、北鎌尾根の残置テント等撤収(4月30日~)
- ・短信発行について、4月26日(水)発送
- ・西山山岳部顧問来室3月19日(月)
- ・ヘッドコーチ交代について、次期HCは船田(2005年入部)が内定
- ・2013年学生の海外遠征について(2013年春)
- ・会報発行について、大島(在グリーンランド)の原稿を載せる
- ・エベレスト基金委員会報告

次回理事・評議委員会：4月24日(火)、5月29日(火)、6月26日(火)

エベレスト基金委員会

エベレスト基金委員会が3月14日(水)神田駿河台日本大学理工学部建築学科5号館3号室にて14:00~開催され、松田委員長、山本委員、平山委員、宮原委員、池田委員、谷口委員、神崎委員、原田委員、古野委員、9名全員が出席し、基金の運用方法について話し合われた。幾つかの案が出たがこの時点では結論が出ず。(原田・記)

新入部員の入部状況

今年度は4月25日現在、5名の新入部員、池田、田仲、須郷、金原、賀来が入部しました。今後も引き続き募集を継続し、部員数二桁を目指します。

日大山岳部が雑誌「PEAKS」の取材を受けました。

内容は雑誌
「PEAKS」
5月号をご覧ください。



見出しは「山の部活、潜入調査」。



4月12日、新人勧誘。文理学部で。

「アンテナ」



1) 住所変更 新住所

平井伸明
田村幸英
木村克久
本多直也
須田貴志
早見紀章
設楽琢磨
高木大地
関洸哉

新入部員

池田祥子 短期大学部 / 生物資源学科 2年

田仲 航 文理学部 / 体育学科 2年

須郷直也 生物資源科学部生物環境工学科 2年

金原守人 生物資源科学部国際地域開発学科 1年

賀来素直 経済学部経済学科 1年

2) H18 年度卒・早見紀章写真展「水彩紀行」～モンベルイベント巡回展スケジュール～

グランベリーモール店(町田) 2012年3月24日(土)～4月8日(日) 下記、写真参照
スライド&トークショー:4月7日(土)14:00～15:30 入場料:無料

金沢店 4月28日(土)～5月13日(日)
トークショー:5月4日(金)、5日(土)14:00～15:00 入場料:無料

大山店 6月9日(土)～7月1日(日)

京都駅前店 7月21日(土)～8月5日(日)

岡山店 8月11日(土)～8月26日(日)

諏訪店 9月1日(土)～9月17日(月)
トークショー:9月1日(土)14:00～15:00 入場料:無料

名古屋店 9月29日(土)～10月14日(日)

青森店 10月27日(土)～11月11日(日)

渋谷店 11月24日(土)～12月9日(日)
講演会:12月8日(土)14:00～15:30 入場料:無料

早見紀章ホームページ <http://www.kishohayami.com/>

4月7日(土)
 スライド&トークショー
 撮影場所の解説をしている様子

ポスター



展示された作品

3) 平成24年度行事日程(予定)

2012年5月31日(木)	総会 場所：四ツ谷・プラザエフ 7階
7月24日(火)	暑気払い 場所：第一ホテル東京アネックス「ラ・パランツァ」
8月	短信160号
10月20日~21日	秋季天幕懇親会 場所：JAC上高地山岳研究所(貸切)
2013年1月	短信161号
1月22日(火)	新年会 場所：第一ホテル東京アネックス「ラ・パランツァ」
2月16日~17日	冬季天幕懇親会



編集後記

この度、長きに渡って「短信」の編集を一手に引き受けていただいていた中嶋啓OBから編集人が変わります。紙面に載せる為の写真撮影や、学生の山行記録集めなど年4回の短信編集に注がれていた労力はとても大きなものだったのではないのでしょうか。この場をお借りして、これまでのご尽力に感謝申し上げます。今後、不慣れな点多々ありますが、不備のない・読みやすい短信作成をモットーに、原田会長と編集・発行に務めさせていただきたいと思っております。よろしく願い致します。(若林・記)

編集/原田洋、若林裕子